

歯科用小照射野 X 線 CT (3DX[®]) 画像診断： 上顎左側大白歯部にみられた融合歯の 1 例

内田 啓一¹, 押領司 謙², 宇津野 創³,
黒岩 博子¹, 杉野 紀幸¹, 塩島 勝¹

¹松本歯科大学 歯科放射線学講座

²松本歯科大学 小児歯科学講座

³松本歯科大学 口腔解剖第一講座

Diagnostic imaging by limited cone beam CT(3DX[®]):
A case of fused tooth observed in the left maxillary molar region

KEIICHI UCHIDA¹, KEN OURYOUJI², HAJIME UTSUNO³,
HIROKO KUROIWA¹, NORIYUKI SUGINO¹ and MASARU SHIOJIMA¹

¹Department of Oral Radiology, School of Dentistry, Matsumoto Dental University

²Department of Pediatric Dentistry, School of Dentistry, Matsumoto Dental University

³Department of Oral Anatomy I, School of Dentistry, Matsumoto Dental University

融合歯は、下顎前歯部に発生することが多く、上顎大白歯部の融合歯の発生頻度は比較的まれであり、通常のエックス線画像検査では、癒合の状態や根管形態を詳細に観察することは困難である。

今回、上顎左側大白歯にみられた融合歯の 1 例について歯科用小照射野エックス線 CT (株モリタ製作所、京都、以下 3DX[®]とする) において、その形態を観察したので画像を供覧する。

患児は、8 歳の女兒であり、上顎左側大白歯部過剰歯の精査のため 2006 年 6 月 16 日にエックス線検査を行った。パノラマエックス線写真 (写真 1) においては、上顎左側第一大臼歯遠心側に過剰歯と思われる不透過像を認めた。同部の状態を三次元的に詳細に把握するために 3DX[®]による検査を行った。その結果、上顎左側第一大臼歯部に認められた過剰歯は、第一大臼歯遠心側においてエナ

メル質および象牙質が接合しているのが認められた (写真 2, 3)。画像診断は、上顎左側第一大臼歯と過剰歯の融合歯と診断した。

融合歯は、複数の歯胚がその形成期に結合した歯と定義されており¹⁾、その原因には、局所的機械的因子や遺伝的因子²⁾などの報告があるが、明らかな発生原因は、明らかにされていない^{2,3)}。融合歯の発生は、永久歯より乳歯において高く、永久歯における発生頻度は、極めて低く 0.3% との報告もある³⁾。正常永久歯と過剰歯や過剰歯同士の頻度は、さらに低いとされており、今回の症例は、極めてまれであると思われる。発生部位としては、前歯部に多くみられ、その理由としては、歯胚の発生時期、歯胚の位置が近接しているなどが考えられている¹⁾。また融合歯の発生は、下顎に多くみられその要因としては、顎骨の大きさの退化や歯胚密度が高いなどが考えられている¹⁾。

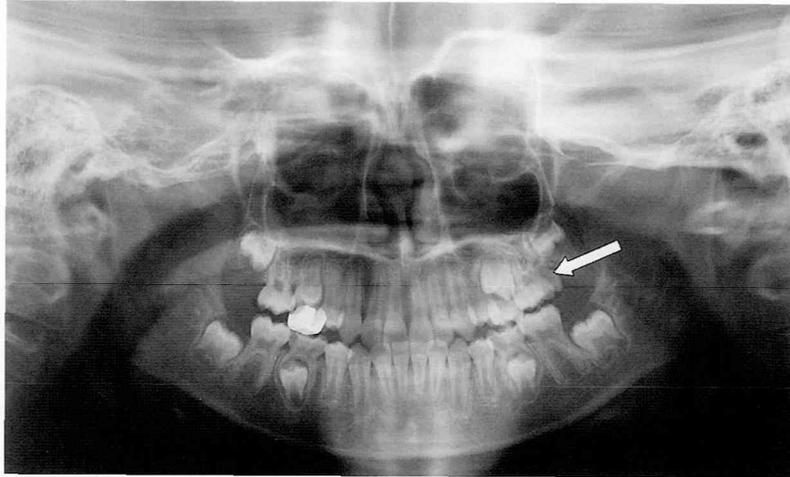


写真1：パノラマエックス線写真においては、上顎左側第一大臼歯遠心側に過剰歯と思われる不透過像を認める（矢印）。

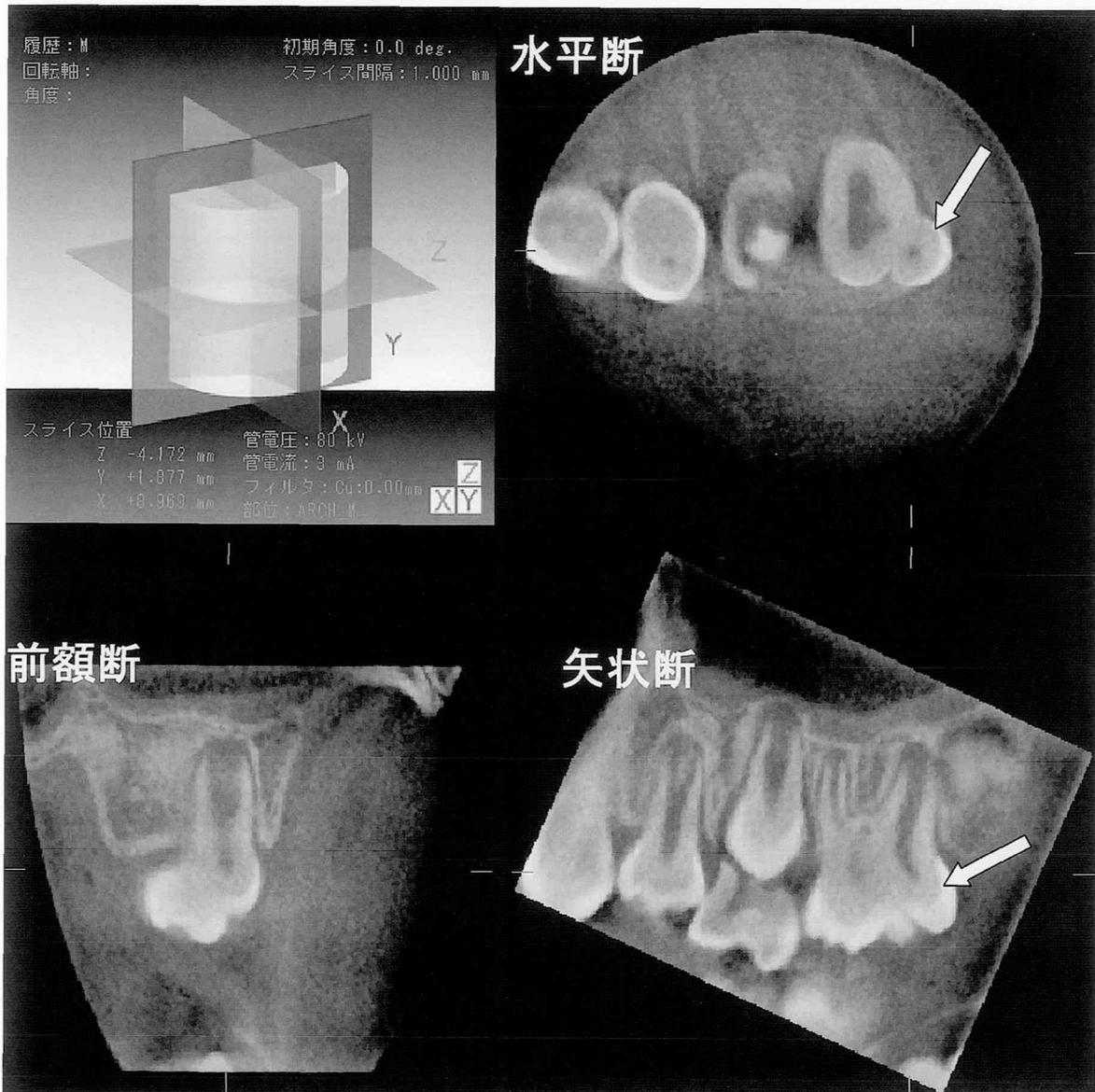


写真2：上顎左側第一大臼歯部に認められる過剰歯は第一大臼歯遠心側においてエナメル質および象牙質が接合し、歯冠側では髓室は分枝している（矢印）。

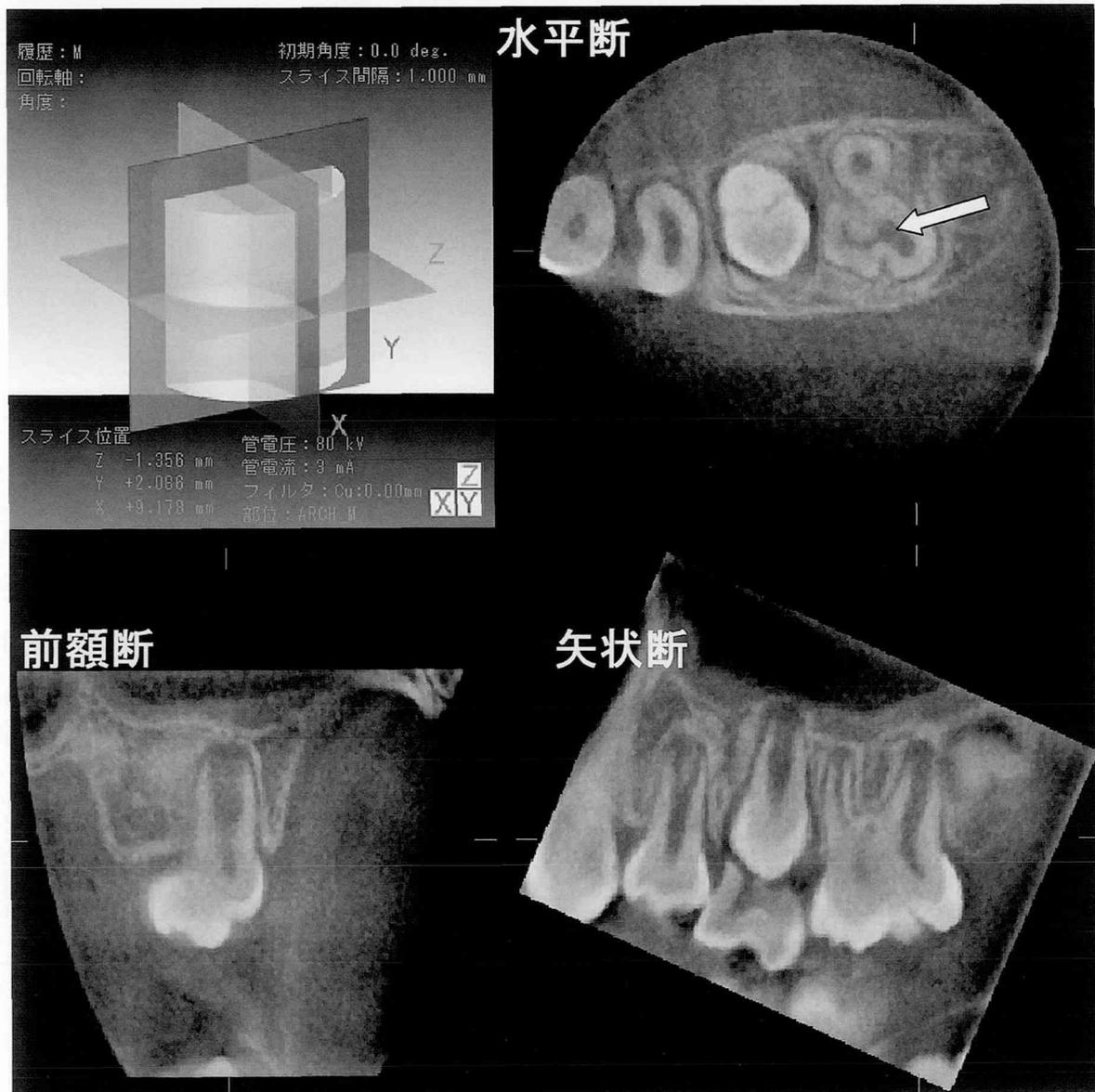


写真3: 根尖側の3DX[®]画像では過剰歯の根管は上顎第一大臼歯と完全に融合しているのが認められる(矢印)。

融合歯の鑑別診断としては、歯牙腫や骨腫などがある。特に歯牙腫は、臨床所見のみでは融合歯との鑑別が困難になる症例があり、摘出して確認するとの報告もある³⁾。しかしながら、今回の症例では、8歳の女儿の上顎第一大臼歯にて発見された融合歯であり、咬合関係や顎の成長などを十分に考慮しなければならないため、3DX[®]検査により歯の抜去を行うことなく、融合歯の形態や隣接歯との位置関係を3次元的に診断することができた1例であった。

文 献

- 1) 石川梧郎, 秋吉正豊 (1989) 口腔病理学 I, 第2版, 15-9, 永末書店, 東京.
- 2) 三好作一郎, 国松仁志, 佐藤敦子 (1994) 永久歯の融合歯の特徴と遺伝性 (抄), 歯科基礎誌 **36**: 97-1.
- 3) 中西弘樹, 野村城二, 柳瀬成章, 長井講有, 大西康広, 松村佳彦, 田川俊郎 (2004) 上顎智歯と過剰歯との融合歯の1例および本邦における文献的考察. 日口診誌 **17**: 217-20.